

ウィルポートと提携

ラストワンマイル物流で

プロロジス

プロロジス（山田御酒社長、東京都千代田区）は5月29日、物流スタートアップ企業のウィルポート（藤原康則社長、中央区）と、ラストワンマイルの物流事業について業務提携した、と発表した。今後、ウィルポートが東京23区を中心に整備する配送拠点の展開をプロロジスがサポートするほか、ウィルポートは物流施設の入居企業の配送依頼を優先的に請け負う。

両社は、相互のノウハウやリソースを活用して協業することで、東京23区内におけるラストワンマイル物流の課題に取り組んでいく。

消費者生活圏における物流の担い手が不足し、ラストワンマイル配送が課題となる中、プロロジスでは近年、消費者や小売店舗に届く前の最終ポイントとなる都市部の物流施設開発に注力。一方、ウィルポートは、配送需要とラストワンマイルドライバーをつなぐとともに、配車やドライバーマネジメントなどラストワンマイル業務を請け負って、物流効率化につなげている。

同社は東京23区及び近郊に数百坪程度の配送デポを3拠点整備して物流事業を受託していることから、業務提携を通して今後、プロロジスが拠点展開をサポート。6月中をメドに、東京23区内で6拠点のデポを新

設する計画だ。将来的には、23区内に25坪（82・5平方メートル）程度の配送ステーションを複数箇所整備して23区内のラストワンマイル物流をくまなくカバーしていく

ことを目標としている。プロロジスでは「物流の人手不足という社会的課題に取り組むとともに、物流施設を利用する企業へのサービス向上を目指す。今回

の取り組みによって得られた基礎データを今後、都心部での物流施設の立地選定・開発に活用していく」としている。

（井内亨）